

比較検討で迷わない！

アプリ開発費用と 正しい見積もりの取り方



よくあるお問い合わせと現実のギャップ

お客様からよくある質問

- アプリの開発費用について知りたい
- 開発の相場を知りたい
- 欲しい機能から見積もりを出してほしい

現実

- 費用はアプリの内容によって大きく変動する
- やりたいことによって費用は大きく変わり、適切な相場は存在しない
- 機能の列挙ではかなりアバウトな概算しか出せない。ちょっとした要件の追加で大きく費用が増える可能性がある

この資料でわかること

1

アプリ開発にかかる
費用の内訳がわかる

2

開発方法による費用の
違いと選び方がわかる

3

費用を抑えるための
ポイントがわかる

4

正しい見積もりの取り方が
わかる

Index

01 アプリ開発費用について

- アプリ開発費用の内訳
- 開発方法による費用の違い
- フルスクラッチ開発
- ハイブリッド開発
- フルパッケージ開発
- アプリ開発費用を抑える5つのポイント
- LINEミニアプリという選択肢

02 見積もりの取り方

- 見積もり前に整理すべき3つのこと
- 要件整理の3ステップ

03 アプリ開発ツール 「APPBOX」のご紹介

01

アプリ開発費用について

アプリ開発費用の内訳

アプリ開発の費用は「開発そのもの」だけではありません。ここでは、主な3つの費用カテゴリを整理して紹介します。

開発費

アプリの設計・開発・テストなど、初期構築にかかる費用

- 機能要件やデザインの複雑さで大きく変動
- 工程は主に4つ「企画・要件定義・設計」「デザイン」「実装・テスト」「公開準備」
- 品質・セキュリティ・テスト範囲を広げるほど費用が急増（80%→100%の仕上げが高コスト）

ツール利用料

SDKやSaaS等の月額コスト

- ツールによって料金体系（MAU課金など）に違いがある
- 数万円～百万円オーバー／月まで幅広い
- ノーコード系の方が高い傾向

運用・保守コスト

アプリの安定稼働に必要な定期メンテナンス費用

- OSアップデート対応、サーバー費、障害対応など
- 継続的な予算確保が必要
- ノーコードツールだと費用に含まれることが多い

よくある誤解は「開発費＝全体費用」だと考えてしまうこと。
運用や保守を考慮しない見積もりは現実的ではありません。

開発方法による費用の違い

アプリの開発費用は、「どのような方法で作るか」によって大きく変わります。
代表的な3つの開発スタイルは、フルスクラッチ／ハイブリッド／フルパッケージ（ノーコード）

フルスクラッチ開発

特徴 すべてをゼロから設計・開発するため、要件の自由度が最大

柔軟性 ◎

費用目安 数千万円～数億円

その他 開発期間が長く、コストも最も高額

向いているケース

全機能に独自要件が課される場合など。
かなり限定的

ハイブリッド開発

(SDK+スクラッチ)

特徴 既存のSDKやSaaS活用で、要件の自由度を維持しつつコストを抑制。コストを抑えながら柔軟性を確保できるバランス型

柔軟性 ○ (SDK部分以外は◎)

費用目安 1000万円～

その他 SDKやSaaS以外の開発箇所が多いほど、開発費も増加

向いているケース

中規模以上の開発の場合。費用が捻出できれば多くのケースで有用

フルパッケージ開発

(ノーコード)

特徴 既存パッケージの枠組みを活用することで、短期間・低コストで構築可能

柔軟性 △

費用目安 100万円～

その他 初期費用は最安。最短1ヶ月でリリース可能。月々の利用料がハイブリッドを超えるケースあり

向いているケース

初期投資を抑えたい場合や、会員証をデジタル化したい場合など

それぞれに、柔軟性・コスト・スピードのトレードオフが存在します。
自社の課題と目的に合わせて、最適な方法を選択することが重要です。

フルスクラッチ開発

「フルスクラッチ開発」は、すべてをゼロから設計・構築する開発手法です。システム設計・デザイン・サーバー・APIなどを自社専用に作り上げるため、独自の要件に合わせた柔軟なアプリ開発が可能です。一方、柔軟性はありますが、開発費用・期間ともに最も高くなります。毎年のOS更新対応など、保守に関してもすべて個別の対応が必要になり、費用が高くなります。

フルスクラッチを選択するケース

SaaS（ツール）の機能では要件に合わず、カスタマイズしても対応できない

開発したソースコードをすべて社内に開示・把握する必要がある
(SaaSは詳細非公開)

数千万円～1億円以上の予算を確保できる

柔軟性



コスト 大

期間

長期

ハイブリッド開発（SDK+スクラッチ）

「ハイブリッド開発」は、既存のSaaSを活用しつつ、必要な部分のみをスクラッチ開発する方法です。コストを抑えながら柔軟性も確保できる、最も現実的な選択肢として多くの企業で採用されています。

SaaS利用以外の部分は独自に開発するため、デザインや各機能、システム連携などの柔軟性も高く、独自の要件に合わせた開発が可能です。

ハイブリッドを選択するケース

独自開発が必要な場合の第一選択

パッケージでは実現できない機能がある

最低でも1千万円以上の予算を確保できる

会員基盤やCRM等のシステム連携が必要

画面等のデザイン要件が厳しい

柔軟性



独自部分

コスト

中～大

期間

中期～長期

フルパッケージ開発（ノーコード）

「フルパッケージ開発」は、既存のアプリパッケージやノーコードツールを活用して構築する方式です。自由度は低いものの、開発費用と開発期間を圧倒的に抑えられるのが特徴です。ツールによっては外部システムとの連携も可能で、会員データとの連携なども実現できます。

パッケージを選択するケース

既存のWebサイトをベースに
アプリ化したい（画面はWebViewがメイン）

会員証やクーポン、プッシュ通知など、
基本的なCRM施策をアプリで実施したい

PoCとしてアプリを開発したい

予算が1千万円未満

柔軟性



コスト

小～中

期間

短期～中期

アプリ開発費用を抑える5つのポイント

アプリ開発では、初期費用だけでなく運用コストまで含めると、総額が数百万円～数千万円単位で変わることもあります。ここでは、コストを抑えつつ品質を維持するための5つの具体的なポイントを紹介します。

フェーズごとに分けてリリース

まずは重要な機能から実装し、フェーズを分けて徐々に開発することでフェーズごとの開発費を抑えることができます。

また、段階的にリリースすることで実態にあった改修が進められ、リスクを下げることもできます。

機能を絞り込む

コアとなる機能のみ実装するなど、実装する機能を絞ることで開発費も保守費用も削減できます。

スケジュールに余裕を持つ

短納期になるほど人員確保や開発工程に無理が生じるため、同じ開発内容であっても費用が高くなります。

内容によりませんが、リリースまで最低でも半年程度の期間を確保できると良いでしょう。

パッケージやSaaSを活用する

個別開発を減らすほど費用を抑えやすくなるため、まずはSaaSの機能やパッケージアプリで実現できないかを検討してみましょう。

LINEミニアプリなどの代替を検討

会員証やスタンプカードなど、紙媒体のデジタル化や簡易的なCRM目的であれば、ネイティブアプリではなくLINEミニアプリで実現できる可能性があります。

ネイティブアプリよりも実現できる幅が狭くなる分、費用も抑えやすいです。

開発費用のポイント

初期費用を抑えられた場合でも、その後の保守やバグ修正、追加開発で費用が膨らむ可能性があります。安くコストをかけるため、費用だけで選ばず、提案の内容や実績、信頼性などを確認し、失敗のリスクを減らすことが長期的なコスト削減につながります。

LINEミニアプリという選択肢

アプリ開発の目的が「会員証」「スタンプカード」「クーポン」などであれば、LINEミニアプリが適している場合もあります。LINE内で動作するため、開発・運用コストを削減でき、ユーザーにもダウンロードしてもらいやすくなります。



LINEミニアプリ開発の詳細はこちら→

詳細を確認する

02

見積もりの取り方

正しい見積もりの取り方（1）：見積もり前に整理すべき3つのこと

アプリ開発でよくある失敗は、要件が固まる前に見積もりを依頼してしまうことです。機能リストだけを伝えても開発会社によって前提が異なり、結果的に「金額のブレ」が大きくなってしまいます。

課題とあるべき姿を 明確にする

「なぜアプリが必要なのか」
を社内で整理

例：顧客接点をデジタル化したい／紙カードを廃止したい

背景情報を共有する

既存システムやデータ連携の有無、
社内体制など

例：会員DBを持っている／POS連携を想定している

ビジネス目標を設定する

「何をもって成功とするか」
を具体化

例：会員登録率10%向上、再来店率5%増など

ポイント

開発会社に「仕様」ではなく「目的」を伝えることで、より良い代替案・費用最適化の提案を受けやすくなります。
見積もり前の準備こそ、成功プロジェクトの出発点です。

正しい見積もりの取り方（2）：要件整理の3ステップ

見積もりを正確に取るには、「何を優先して作るか」を明確にすることが重要です。すべての要望を盛り込むと、費用もスケジュールも膨らみます。段階的に整理することで、適正な見積もりが可能になります。

機能に優先順位をつける

- 「必須」と「後回しでもよい」機能を分類
- 優先度を明確にすれば、段階的な見積もり取得も可能

期限・予算を2段階で設定

- 「理想」と「最低限守るべきライン」を分ける
- 柔軟に調整できる前提を開発側と共有

信頼できる会社と契約後に 詳細を詰める

- 機能が複雑になるほど事前の要件定義が重要
- 契約前には概算しか出ないため、見積もり段階で信頼できそうな会社を選ぶ

ポイント

- 要件を伝えただけでは正確な見積もりを出すのは難しい
- 要件定義後に概算の見積もりよりも費用が増えるケースはある
- 費用が高くなる場合は松竹梅でパターンを出してもらおうと具体的に検討できる

03

アプリ開発ツール「APPBOX」

フルパッケージやハイブリッド型にも対応！

APPBOXとは

「APPBOX」(アップボックス)とは、アプリに必要な機能をモジュール単位で提供できるアプリ開発支援キットです。

APPBOXとは？



- 開発コストを下げる
- 運用品質が上がる
- 各機能が1つ単位で提供可能

どのようにアプリ開発するの？



- APPBOXが保有している機能は活用する
- SDK提供で組み込みもカンタン
- 足りない部分はスクラッチ開発

APPBOXとは

APPBOXのご提供パターンとしては、スクラッチ開発、パッケージ提供、機能拡張（機能追加）があります。

新規でアプリを作りたい

アプリに必要な機能を選び、組み込み型でアプリ開発ができます。

すでにアプリを運用している

アプリを作り替えることなく、必要な機能を追加することで、現行アプリの機能拡張ができます。

スクラッチ

パッケージ

機能拡張



貴社ビジネスに最適なアプリを0から作るより早く

APPBOXを活用したスクラッチ開発の事例



必要な機能が組み込み済みのパッケージ製でスピード購入

APPBOXパッケージを導入した事例



フリーレイアウトSDK

会員証SDK

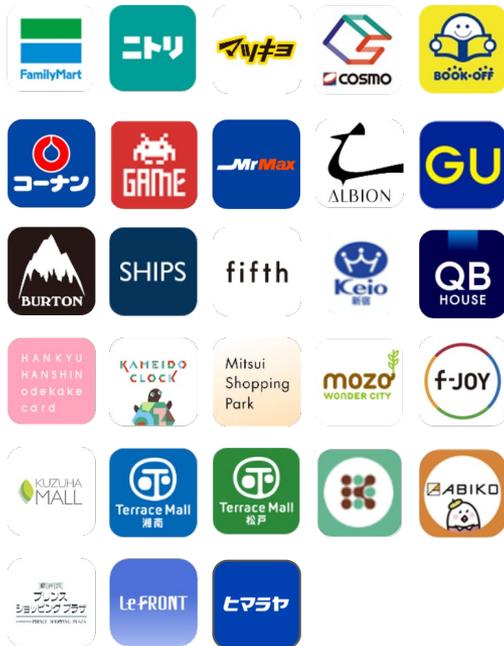
他社開発の既存アプリでも必要な機能を選んで組み込み可能

既存アプリはそのままAPPBOXの一部の機能を導入した事例

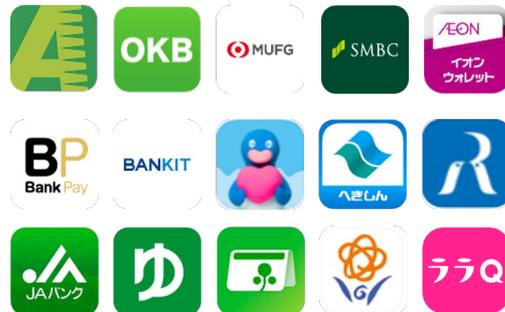


アプリ導入実績

小売



金融



電鉄・その他



300超の
アプリ開発・マーケティング実績

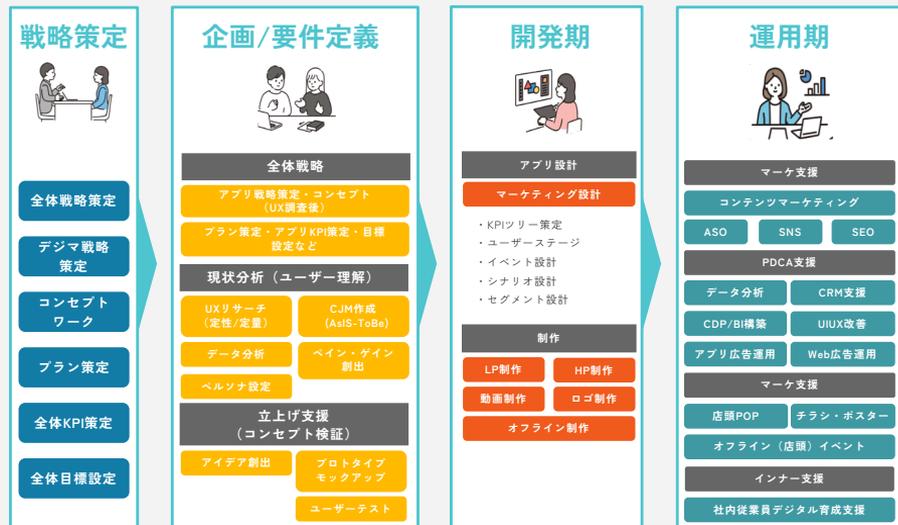
アイリッジの強み

アプリ領域のトータルサポートはもちろん、コミュニケーションデザインを含めた統合マーケティング支援が可能です。

アプリ領域のトータルサポート



統合マーケティング支援（戦略から実行まで）



お問い合わせはこちら



dep-mk@iridge.jp



03-6441-2325

お問い合わせフォーム

https://iridge.jp/contact/contact_appdev/

